令和6年度　杉並区立井荻小学校 経営・評価計画 ［自己評価報告書］・「学校関係者評価報告書」　　校長　田中　裕次

目標体系	
杉並区の教育ビジョン・ミッション	みんなのしあわせを創る杉並の教育
学校の教育目標	○考える子　　◎やさしい子　　○強い子
重点目標又は経営目標	「どの子も伸びて、学び合う学校」～安心と居場所のある学級の中での伸び行く子供達～　　○いじめの未然防止と早期解決に向けた取組を推進する。 ○学力向上に向けた取組を充実させる。 ○特別支援教育の理解と充実に努めます。 ○小中一貫教育、幼保小連携の充実を図る。
目指す学校像	○子供達が目標に向かって日々の努力を継続し、学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる学校
	○保護者や地域の期待に応え、一人一人の子供の健やかな成長を目指す学校　　○心豊かで将来に夢や希望を抱くことができる学校
目指す児童像	○　考える子・・・自ら学び　自ら考え　正しく判断し、表現することができる子供
	○　やさしい子・・・お互いを尊重し合い、思いやりの心と協力心をもって、よりよい集団を築こうとする子供
	○　強い子・・・心と身体の健康づくりにねばり強く取り組み、最後までやりとげる子供
目指す教師像	① 教育への熱意と使命感をもち、子供達に寄り添う教師
	② 地域・保護者と共に、子供の心と可能性を広げる教師
	③ ICT機器を活用し、わかる・楽しい授業づくりを目指す教師

評価
優れている
良い
おおむね満足
要改善

令和6年度　経営計画・評価計画

区分	重点目標	目標実現のための方策	評価指標・評価基準 取　　組	結果と成果	評価	学校関係者評価委員
経営方針の重点	「やさしい子」人間性豊かな児童の育成	1　人権意識の醸成 2　個が生かされる集団づくり 3　生命尊重と安全指導の継続	○他者を認める基本 ・主体的な「学級活動」の取り組み（◎認め合う関係◎自己実現◎主体的なつながる力） ・小中で連携した「あいさつ運動」 ・「特別の教科道徳」と他教科との横断的な指導 ○認め、許し合える学級学年集団づくり ・間違えがゆるされる授業風土 ・特別活動を通した意図的な人間関係形成 ・校内委員会を中心とした特別支援教育の充実 ・学校行事、宿泊行事等での体験活動の充実 ○身の回りの安全を考え、きまりを守って生活できるようにするための指導 ・「いおぎスタンダード」の徹底 ・職員間、家庭との情報共有 ・遊びのルールの見直しと徹底	・家庭との情報共有のやり方について保護者はもっと気軽に先生と話せる雰囲気の場を求める。どのようにすればよいのかは課題である。「ほっとほっとティータイム」等の保護者交流の場はとても良い貴重な場だと思う。 ・校内であればこちらから挨拶をすると、挨拶を返す児童が多い。児童が先に挨拶をすることは少ない。あいさつは印象を良くするコミュニケーションの道具であり、防犯に繋がるということも伝えていき児童が育っていくと良い。 ・保健室、校長室等居場所を作っている。登校しぶり、教室にいられない、単独の別行動をする傾向がある児童について、教員だけではなく主事も見守る雰囲気がある。どんな児童にも居場所や話しやすい人ができているように思う。 ・諸調査で自分の考えや気持ちを伝え話し合う意欲が低い結果だった。授業参観でも対話や話し合いながら授業展開する姿が余り見られない。国語の学習指導要領で示されている「話す」「聞く」「話し合う」ことの各学年の到達目標を全校で確認し、各学年時にスキルを定着させ積み上げていきたい。 ・他者を認める基本的なスキルや落ち着いた授業出来る学級づくりのためにも、全校で取り組んでいる「聞き方名人」「話し方名人」の定着を期待したい。 ・うさぎを飼ってほしいという児童の要望がある。思いやり、弱きものへの優しさを育てるなど、情操教育の面からも有意義ではないか。 ・個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着を図っていただきたい。 ・児童にしっかり向き合い、ほめることも大切にしていただきたい。	2	・家庭との情報共有のやり方について保護者はもっと気軽に先生と話せる雰囲気の場を求める。どのようにすればよいのかは課題である。「ほっとほっとティータイム」等の保護者交流の場はとても良い貴重な場だと思う。 ・校内であればこちらから挨拶をすると、あいさつを返す児童が多い。児童が先に挨拶をすることは少ない。大人に対して声を出しにくいと考えられるが、あいさつは印象を良くするコミュニケーションの道具であり、また先にあいさつをすることで防犯に繋がるということを訴えて、あいさつをためらわない児童が育っていくと良い。 ・保健室、校長室等居場所を作っている。登校しぶり、教室にいられない、単独の別行動をする傾向がある児童について、教員だけではなく主事も見守る雰囲気がある。それによって、どんな児童にも居場所や話しやすい人ができているように思う。 ・諸調査で自分の考えや気持ちを伝え話し合う意欲が低い結果だった。授業参観でも対話や話し合いながら授業展開する姿が余り見られない。国語の学習指導要領で示されている「話す」「聞く」「話し合う」ことの各学年の到達目標を全校で確認し、各学年時にスキルを定着させ積み上げていきたい。 ・他者を認める基本的なスキルや落ち着いた授業出来る学級づくりのためにも、全校で取り組んでいる「聞き方名人」「話し方名人」の定着を期待したい。
	「考える子」主体的・対話的・深く学ぶ児童の育成	1　思考・判断・表現力を高める 2　知識・技能の定着 3　学ぶ意欲と主体性を高める	○地域の環境問題を発達段階に応じて自分事として体験的に考え、表現する活動 ・川ノートの活用、環境教育PTの活性化 ・調べ学習と学校図書館機能の連携 ○表現したり、伝え合ったりする場の設定 ・正しい言語感覚、自分の思いや願い、考えを豊か表現できる場 ・個で考える場面、協力して学ぶ場面の明確化 ・一人一台端末の効果的活用 ○基礎基本、学び直しを押さえた学習指導 ・少人数指導、習熟度別指導の充実 ・定期的な振り返り学習 ○ICT機器の効果的な活用　ICTPTの活性化 ○自己肯定感を育む指導 ・「課題発見」「課題解決」に根ざした問題解決的な学習の充実 ・！と？あふれる授業づくり	・算数少人数授業は、自分の希望と実力の両面からクラス分けされている。理解に合致した問題に取り組むことで「できる」「できた」という経験が増え、学習意欲が高まっていると感じる。 ・「川の学習において、複数年に渡り学習に取り組んできたことは、善福寺川への理解が深まり、6年生になると自信がもてるようになり、成長をしている姿を見ることができ、川の学習の成果が見られ、継続することの大切さを感じる。 ・タブレットを個々で持っているが、タブレットのフォーマットに入力する以外にも、従来の手書きの新聞やポスターなど、様々なまとめ方を体験することで、自分の得意とするまとめ方や発表方法に気づいていけるようになっている。 ・研究校の経験を経て、授業におけるICT機器がより良く活用されるようになっている。 ・学校の特色でもある野鳥観察ですが、自然環境や野鳥に興味を持ち、もっと学びたい児童のために「自然・野鳥観察クラブ」の復活をしてはいかがか。 ・授業を参観した際、授業に参加できない児童がいた場合、同調するのでもなく、強い正義感で過剰に干渉することもなく、適度に許容している雰囲気を感じた。 ・特別支援の必要な児童の在籍率が多い中で、支援員の配置、コーディネーターの役割、校内委員会の取り組み等に大変な努力が見られる。保護者との情報交換、共通理解さらにいおぎ教室や教育相談員の協力を得た面談で共育意識の醸成を図るのはどうだろうか。 ・体験活動等から自己肯定感を高める指導をお願いしたい。	2	・算数少人数授業は、自分の希望と実力の両面からクラス分けされている。理解に合致した問題に取り組むことで「できる」「できた」という経験が増え、学習意欲が高まっている。 ・6年生に話を聞く会で「川の学習の意味を理解しているのは6年生だけ」という意味の発言が一部児童からあった。複数年に渡り学習してきたことで、善福寺川への理解が深まり、その知識と理解に対して自信があるようだった。下の学年に発表したい、外部に発表したいという、姿勢も見られた。 ・タブレットを個々で持っているが、タブレットのフォーマットに入力する以外にも、従来の手書きの新聞やポスターなど、様々なまとめ方を体験することで、自分の得意とするまとめ方や発表方法に気づいていけるようになっている。 ・研究校の経験を経て、授業におけるICT機器がより良く活用されるようになっている。 ・学校の特色でもある野鳥観察ですが、自然環境や野鳥に興味を持ち、もっと学びたい児童のために「自然・野鳥観察クラブ」の復活をしてはいかがか。 ・授業を参観した際、授業に参加できない児童がいた場合、同調するのでもなく、強い正義感で過剰に干渉することもなく、適度に許容している雰囲気を感じた。 ・特別支援の必要な児童の在籍率が多い中で、支援員の配置、コーディネーターの役割、校内委員会の取り組み等に大変な努力が見られる。保護者との情報交換、共通理解さらにいおぎ教室や教育相談員の協力を得た面談で共育意識の醸成を図るのはどうだろうか。 ・うさぎを飼ってほしいという児童の要望がある。思いやり、弱きものへの優しさを育てるなど、情操教育の面からも有意義ではないか。
	特別支援教育の理解と充実に努める。	1　「いおぎスタンダード」の徹底と、居心地のよい居場所づくり 2　個の発達の特性に応じたきめ細やかな指導の充実を図る 3　特別支援教室（いおぎ教室）と連携と、教室での安定した学び	○　学校全体での共通理解 ・学習を進めるための手段であることなど、学習規律の役割を児童に理解 ・児童同士が学び合える環境の整備 ○　校内の指導体制の確立、教育相談の充実 ・児童理解を深める情報交換とコーディネーター中心の組織的な協力体制 ○　外部連携機関との接続 ・いおぎ教室担当教員、SSW、医療等と適宜相談、個別の課題への対応	・「いおぎスタンダード」はかねりの児童に浸透していると感じる。一方で「なぜこれをスタンダードとしているのか」という部分の理解はまだまだとも感じる。 ・6年生から話を聞く会で、「シャープペンシルを使いたいのに、なぜ鉛筆で書くことを求められるのか」という話題になり、担任から説明を受けて驚きつつ納得する様子があった。 ・授業を参観した際、授業に参加できない児童がいた場合、同調するのでもなく、強い正義感で過剰に干渉することもなく、適度に許容している雰囲気を感じた。 ・支援を必要とする児童について、小さくても改善目標を共有し、日々共通に対応していくことによって成長が実感できるようにすることが重要である。そのためには、振り返りを通じて目標や対応の柔軟な軌道修正や保護者との共通認識が必要である。	2	・「いおぎスタンダード」はかねりの児童に浸透していると感じる。一方で「なぜこれをスタンダードとしているのか」という部分の理解はまだまだとも感じる。 ・6年生から話を聞く会で、「シャープペンシルを使いたいのに、なぜ鉛筆で書くことを求められるのか」という話題になり、担任から説明を受けて驚きつつ納得する様子があった。 ・授業を参観した際、授業に参加できない児童がいた場合、同調するのでもなく、強い正義感で過剰に干渉することもなく、適度に許容している雰囲気を感じた。 ・支援を必要とする児童について、小さくても改善目標を共有し、日々共通に対応していくことによって成長が実感できるようにすることが重要である。そのためには、振り返りを通じて目標や対応の柔軟な軌道修正や保護者との共通認識が必要である。 ・支援を必要とする児童が増える中、先生方の負担も大きくなっている状況ですが、今後もさらに負担増加傾向にあると思うので、教職員、専門職と情報共有し、学級活動が充実して行えるように努力していただきたいです。 （個別学習を必要とする児童と他の児童とのバランスを考える工夫）
	小中一貫教育、幼保小連携の充実を図る。	1　小中一貫教育グループ校の児童生徒間交流・学校訪問 2　3校の共通課題とCSの連携強化 3　近隣幼・保園との連携と小学校生活を円滑に創り出すスタートカリキュラムの検証	○　情報を共有し中1ギャップの解消 ・年間3回の教職員交流の取組継続 ・中学校教室をお借りした中学校プレ授業や部活動体験 ・挨拶運動、花生、運動会ボランティア等児童、生徒の交流活性化 ○　3校CSの共催を年1回開催し、児童・生徒の課題共有 ○　1年生の円滑な学校生活の接続 ・管理職・特別支援教育コーディネーターの幼稚園・保育園の参観 ・幼保小学校教職員との連絡会	・荻窪中と連携した「あいさつ運動」展開した結果、「あいさつ運動」期間以外でも、自然に接する機会が増えた」というのは素晴らしい。子供から大人まで人間関係の基本は「あいさつ」。朝遊びで登校してくる子供たちが挨拶してくれる機会が増えた。 ・5、6年生中心に専科以外でも教科担任制を導入し、担任以外の授業がほとんどとなる授業体制となっており、中学校に近い体制での授業の受け方をすることで、中学でいきなり多数の先生から学ぶというギャップは軽減したのではないかと考える。 ・中学校の部活体験は、児童にとってはなかなか入る機会のない中学校舎を見ることができ、小学校とは違った活動の経験ができ、「自分が中学生になったら何をするか」というイメージがより明確になる取り組みだと思う。 ・近隣の幼稚園、保育園の見学が増えており、より小学校がイメージできると感じる。	2	・荻窪中と連携した「あいさつ運動」展開した結果、「あいさつ運動」期間以外でも、自然に接する機会が増えた」というのは素晴らしい。子供から大人まで人間関係の基本は「あいさつ」。朝遊びで登校してくる子供たちが挨拶してくれる機会が増えた。 ・5、6年生中心に専科以外でも教科担任制を導入し、担任以外の授業がほとんどとなる授業体制となっており、中学校に近い体制での授業の受け方をすることで、中学でいきなり多数の先生から学ぶというギャップは軽減したのではないかと考える。 ・中学校の部活体験は、児童にとってはなかなか入る機会のない中学校舎を見ることができ、小学校とは違った活動の経験ができ、「自分が中学生になったら何をするか」というイメージがより明確になる取り組みだと思う。 ・近隣の幼稚園、保育園の見学が増えており、より小学校がイメージできると感じる。 ・小中連携して行っているあいさつ運動の成果は発揮されていると思うが、まだまだ充分とは言えないので、今後も取り組んでいただきたい。中一ギャップや不登校の解消のためにも連携が大事だと思う。さらなる連携をお願いする。
体育・健康教育	「強い子」心身ともに健康でたくましい児童の育成	1　体力を高める 2　健康増進と自己の体への関心を高める 3　最後までやり通す力を育てる	○楽しく意欲的に運動する機会と場の設定 ・楽しくできる喜びを味わえる体育授業 ・体育的活動「チャレンジタイム」の活性化 ・朝遊び、休み時間の外遊びの奨励 ○自分の健康に関心をもち、すすんで健康増進に取り組ませる支援 ・食育授業の充実・保健指導の充実 ・手洗い励行、ソーシャルディスタンス、換気 ・オリパラ教育の理念を継承しスポーツ選手交流の推進 ○自律し、行動する力を育てる指導 ・丁寧に書く、途中を丁寧に学習する	・昨年度は「短なわ」と「持久走」くらいしか子供から聞かなかったが、今年度は「長なわ」も加わり、また子供の参加姿勢も意欲的になっているように感じる。 ・先生方も参加して、より盛り上げる演出がされているのだろう。他の児童がどれくらいできているかといった話題も、昨年度より家庭で話題が出ている。	2	・昨年度は「短なわ」と「持久走」くらいしか子供から聞かなかったが、今年度は「長なわ」も加わり、また子供の参加姿勢も意欲的になっているように感じる。 ・先生方も参加して、より盛り上げる演出がされているのだろう。他の児童がどれくらいできているかといった話題も、昨年度より家庭で話題が出ている。 ・児童のアンケートの中でヨガの活動に対する意見が多くあったが、検討する必要もあるのではないか。体力調査の結果、報告を聞いたが、より体力向上に努力していただき、授業の中でも課題解決に取り組んでいただきたい。
特別活動	児童が中心となった学校行事、学級会活動の展開	安心と居場所のある学級の中で、児童の主体的な活動を積み重ね以下の力を養う 1　みんなとともに生きていく力を育む 2　よりよい集団を作ろうとする力を育む 3　なりたい自分に向けてがんばる力を育む	○　学級会活動35時間を丁寧な積み重ね ・主体的な取り組みを振り返ることができる教室掲示の工夫 ・発達段階に応じた学級会の活発な意見交換 ○　児童の主体性が高まる活動、行事の充実 ・代表委員会を中心とした児童の発意・発想を取り入れた行事の展開 ・よりよい学校生活に向けた高学年主体の委員会活動 ○　高学年のリーダー性と規範意識の醸成 ・年間での計画的な縦割り班活動の充実と活性化	・きょうだい学級からたてわりの活動にしたことで、6年生のリーダーシップが求められる場が増えた。 ・各学年少人数のたてわりのため、より多くの6年生がリーダーとなり、リーダーシップが育成する場が増えた。 ・伝統的にきょうだい学年もあり、学年を越えたつながりが生かされていたが、コロナでその活動が制約された。たてわり班活動を契機に学年間交流が再活性化される期待がもてる。 ・自分の言葉で意見を言うことができる児童が育っていると思う。たてわり班活動はリーダーシップをしっかり育てている。 ・3学期に入り、たてわり班活動が5年生になりリーダーの移行がスムーズに進んでいるのがよい。	2	・きょうだい学級からたてわりの活動にしたことで、6年生のリーダーシップが求められる場が増えた。 ・各学年少人数のたてわりのため、より多くの6年生がリーダーとなり、リーダーシップが育成する場が増えた。 ・伝統的にきょうだい学年もあり、学年を越えたつながりが生かされていたが、コロナでその活動が制約された。たてわり班活動を契機に学年間交流が再活性化される期待がもてる。 ・自分の言葉で意見を言うことができる児童が育っていると思う。たてわり班活動はリーダーシップをしっかり育てている。 ・3学期に入り、たてわり班活動が5年生になりリーダーの移行がスムーズに進んでいるのがよい。 ・学校の諸行事の中で6年生のリーダーシップは6年間の成長を感じるが、たてわり班活動や異学年交流等を充実させる。
開かれた学校運営	地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す	1　コミュニティスクールの充実、発展 2　思いや願いを受け止め期待に応える教育の推進 3　保護者・地域との連携による環境教育等の充実 4　井荻小地区の青少対活動、子育てネットワークとの連携	○　地域運営学校として参画する方々の意識向上 ・学校関係者評価や自己評価等の効果的な評価及び改善 ・学校公開、運動会、文化的行事発表会等、児童の成長の積極的公開 ○　地域の協力、連携による教育環境整備、環境教育等の充実・発展 ・支援本部、コーディネーターとの定期的な連絡体制と目指す児童像の共有 ・環境教育に関する校内組織（PT）の活性化と活動内容のPDCA推進 ○　児童の地域行事参加の促進、管理職の積極的参加 ○　地域ぐるみでの教育に関する課題・目標等の共有、連携協働による支援活動等の充実 ・管理職による関係外部団体連絡会等への積極的な参加と意見交流	・地域との良好な関係を一層充実させる課題としては、地域と保護者との連携強化が挙げられる。 ・校長先生、副校長先生の地域への理解は素晴らしいと、常に感謝している。地域と保護者の連携強化のためには、学校内外の多様な行事を通して、子どもだけではなく保護者も子どもと一緒に関わり、当事者意識をもちながら、より一層互いに協力をしていく姿勢が大切と感じる。 ・感染症に注意しながらも、地域の行事が活発になってきている。 ・地域のおまつりやイベントへの参加児童は増加傾向にあるように感じる。昨年参加した児童から話を聞いてなど、認知度が広まっていることがあるのかもしれない。 ・土曜クラブは、特に「チャレンジキッズ」の企画で抽選のものが増えている。それだけ児童に魅力的な活動が提案されているからではないか。 ・学校公開、運動会、文化的行事発表会等、児童の成長の積極的公開については主任児童委員への招待がなかった。地域関係者への公開を増やしても良いのではないか。	3	・地域との良好な関係を一層充実させる課題としては、地域と保護者との連携強化が挙げられる。 ・校長、副校長先生の地域への理解は素晴らしいと常に感謝している。しかしながら、保護者はあまり動きたくはない、できればイベントを減らしてほしい、子供だけは楽しませてほしい、とお客様気分の方が多いことがアンケートからわかった。PTAも地域活動の一つである自覚が欠如しています。そしてPTA活動は親として育つ社会教育の場でもあったはずですが、どうなってしまったのでしょうか。しかも外注したらPTAの存在意義がありません。うっとうしいと思われている地域のものとしては、安心してバトンタッチする次世代の人を見つけられないのです。バトンタッチしたらすぐにも引退します。 ・感染症に注意しながらも、地域の行事が活発になってきている。 ・地域のおまつりやイベントへの参加児童は増加傾向にあるように感じる。昨年参加した児童から話を聞いてなど、認知度が広まっていることがあるのかもしれない。 ・土曜クラブは、特に「チャレンジキッズ」の企画で抽選のものが増えている。それだけ児童に魅力的な活動が提案されているからではないか。 ・学校公開、運動会、文化的行事発表会等、児童の成長の積極的公開については主任児童委員への招待がなかった。地域関係者への公開を増やしても良いのではないか。 ・CSアンケートの振替をし、保護者や児童の意見を反映して学校運営につなげていく必要もある。参考の焼酎連携も検討する。
その他	教職員の働き方改革を推進する	・ライフワークバランスを意識したタイムマネージメント力の醸成 ・学校業務全般の効率化	○　校内研究による教育DXの推進し、学びの質的向上と校務改善を推進する。 ・自己申告目標の明記 ・文書起案の大幅なデータ化	・学校支援本部やPTA、地域の行事は、休日や放課後の遅い時間など勤務時間外に行われることが多い。行事によっては教員の参加を求める場合もあり、応えてもらっている。 ・教員が参加をしてくれると「先生が来てくれた」と子供は喜ぶ。しかし、業務外の時間外活動への参加に対し、何らか賴いることはできているか。 ・保護者対応が大きな負担になったり、学級の危機管理が課題になったりしている。初期対応の仕方、学年体制や校内委員会の協働、管理職との連携、外部機関との連携等について明文化し共通理解をしておいてはどうだろうか。	3	・学校支援本部やPTA、地域の行事は、休日や放課後の遅い時間など勤務時間外に行われることが多い。行事によっては教員の参加を求める場合もあり、応えてもらっている。 ・教員が参加をしてくれると「先生が来てくれた」と子供は喜ぶ。しかし、業務外の時間外活動への参加に対し、何らか賴いることはできているか。 ・保護者対応が大きな負担になったり、学級の危機管理が課題になったりしている。初期対応の仕方、学年体制や校内委員会の協働、管理職との連携、外部機関との連携等について明文化し共通理解をしておいてはどうだろうか。